

愛称

自由演技

# One国内株オープン

<愛称:自由演技>

追加型投信／国内／株式

**NISA**  
成長投資枠

お申込みにあたっては、販売会社からお渡りする投資信託説明書(交付目論見書)を必ずご覧ください。

■ 投資信託説明書(交付目論見書)のご請求・お申込みは



商号等：PWM日本証券株式会社  
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第50号  
加入協会：日本証券業協会  
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

■ 設定・運用は



商号等：アセットマネジメントOne株式会社  
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第324号  
加入協会：一般社団法人投資信託協会  
一般社団法人日本投資顧問業協会

# ファンドマネジャーからのメッセージ

## 私の投資哲学

### アクティブファンドの使命

当ファンドは東証株価指数 (TOPIX) (配当込み) に対するアクティブファンドです。アクティブファンドとは、そのベンチマーク (当ファンドではTOPIX (配当込み)) を上回るパフォーマンスを出すことが命題となるわけですが、一体どれくらいの期間を保有してベンチマークを上回れば投資家のみなさまにとっての“良いファンド”になるのかと考えました。投資家のみなさまの中には長期保有する方と、マーケットを見ながらタイミングを見計らって購入・解約をする方がいますので、私はより多くの方にご満足いただくために、「どのタイミングで購入しても、半年以上保有していればTOPIX (配当込み) を上回るファンド」を目指しながら運用を行っています。

※上記は、あくまでも運用担当者の投資哲学であり、ファンドの運用方針等を示したものではありません。また、将来の運用成果等を示唆・保証するものでもありません。

### 好き嫌いせず、すべての銘柄・セクターに目を通す

私は銘柄やセクターに好き嫌い、得意や苦手意識がないため、企業や業種を見る際、偏らずに幅広く情報を取得します。決算情報が投資判断に直結するため全上場銘柄ほぼすべての決算発表に目を通し、出来る限りの情報を集めます。決算情報のチェックは発表当日中が基本ですが、決算が集中する日、例えば金曜の引け後であれば土日を使ってチェックすることもあります。その決算情報から妥当と考えられる株価水準を算出し、現在の株価と比較を行い割安であれば買います。決算発表後にその銘柄の株価が大幅に上昇してもうろたえず、株価が自分自身の考える妥当な水準以下であれば買いにいきます。売りの判断も同様です。

(2025年8月末時点)

## 運用主担当者

### 酒井 義隆

運用本部 株式運用部

公益社団法人日本証券アナリスト協会検定会員 (CMA)

2004年、興銀第一ライフ・アセットマネジメント株式会社 (現アセットマネジメントOne株式会社) に入社。2005年12月より国内株式やオルタナティブ運用に従事する。



# お伝えしたいポイント

## 1 良好なパフォーマンスを残してきた国内株式ファンド

- 当ファンドの運用主担当者は、大型株・中小型株といった規模別でのリターン格差に着目した投資スタイルに比重を置いた運用を行い、良好なパフォーマンスを残してきました(2025年8月末時点)。

## 2 「自由」な運用スタイルでパフォーマンスの向上を目指す

- I 規模別配分比率を機動的に変更
- II 個別銘柄選択による超過収益\*の積み上げ



※上記はイメージであり、当ファンドの内容のすべてを表したものではありません。

## 3 わが国の全上場銘柄を投資対象としているため、多くの投資機会が存在

- 当ファンドは、新興市場などにも幅広く投資し、超過収益\*の獲得を目指します。

\*TOPIX(配当込み)に対する超過収益を指します。

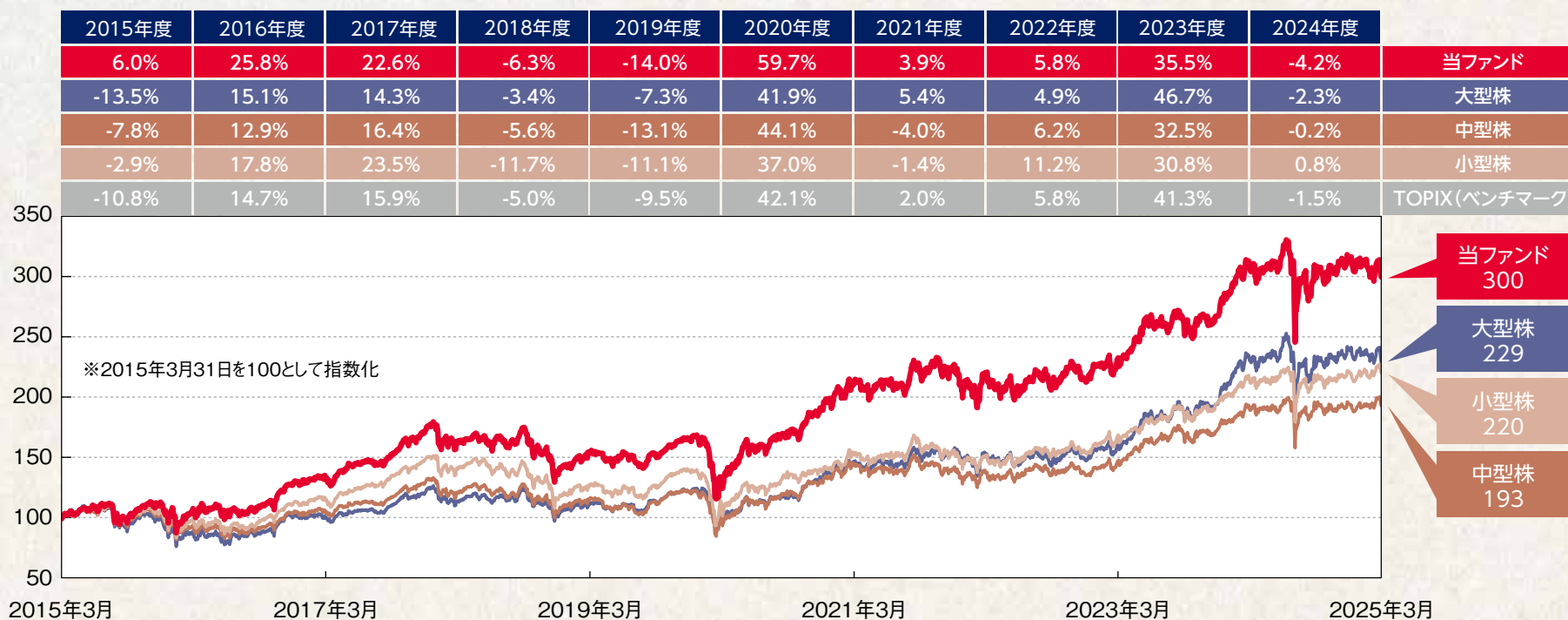
※将来の市場環境の変化等により、上記運用方針は予告なく変更される場合があります。

※上記は過去の運用実績であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

# 規模別株価指数と比較した運用実績

- 過去10年を通してみると、大型株が中小型株に比べて強い、または弱いといった相場の波はありますが、当ファンドは規模別株価指数を概ね上回る実績となりました。
- 特に、2020年度はコロナ・ショックからの回復が顕著で、規模別株価指数を大きく上回りました。

当ファンドと規模別株価指数のパフォーマンス比較



※期間：2015年3月31日～2025年3月31日(日次)

※当ファンド：分配金再投資基準価額、大型株：TOPIX 100(配当込み)(TOPIX算出対象のうち、時価総額、流動性の特に高い100銘柄)、中型株：TOPIX Mid400(配当込み)(TOPIX 100について、時価総額、流動性の特に高い400銘柄)、小型株：TOPIX Small(配当込み)(TOPIX算出対象から、TOPIX 100、TOPIX Mid400の構成銘柄を除いた銘柄)を使用。TOPIX(ベンチマーク)は、配当込みを使用。

出所：ブルームバーグのデータをもとにアセットマネジメントOne作成

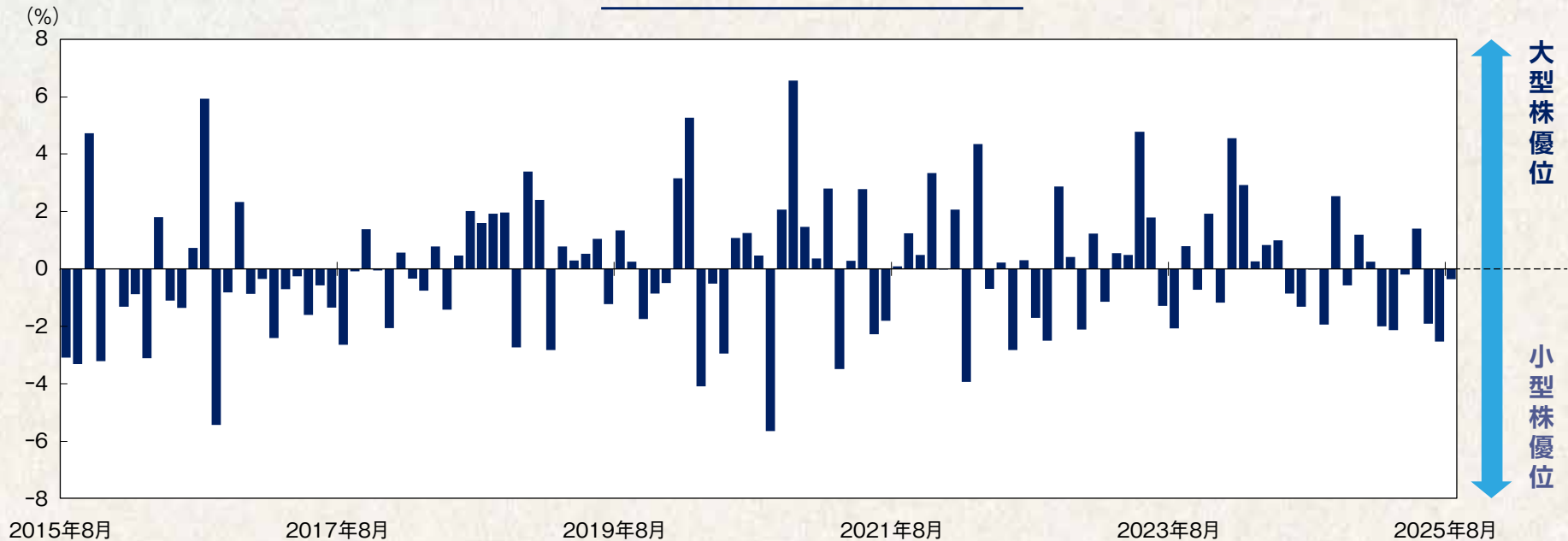
※大型株、中型株、小型株は、当ファンドのベンチマークではありませんが、当ファンドでは投資環境に応じて、大型、中小型などといった視点で資産配分を行うため、比較を行っています。

※上記は過去の情報および運用実績であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

# 変化する相場局面：大型株と小型株

- 株式市場には様々な相場局面があります。上昇相場や下落相場だけではなく、大型株優位や小型株優位など、局面によって変化します。
- 特定のスタイルで運用を行うファンドの場合、その運用スタイルに不利な相場環境が続くと、パフォーマンスがTOPIX (配当込み) に対して劣後し続ける可能性が高まります。つまり、TOPIX (配当込み) を上回るかどうかは、投資家の購入タイミングによって大きく左右されてしまいます。

大型株の対小型株1ヵ月超過リターン



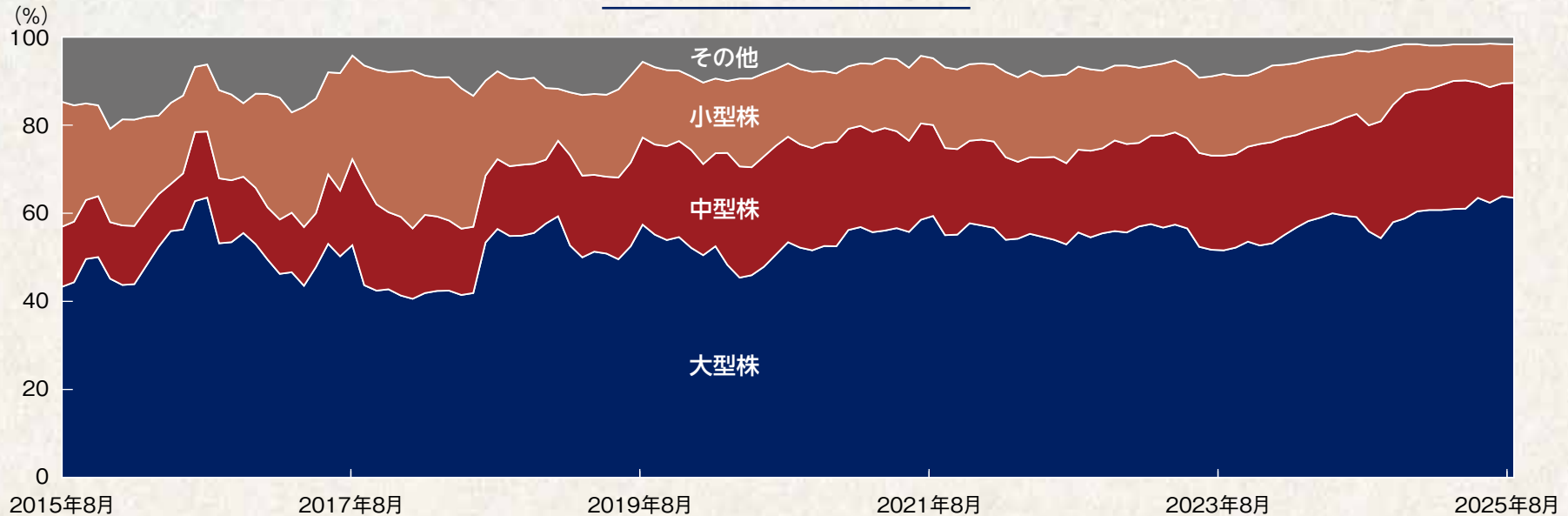
※期間：2015年8月末～2025年8月末(月次)  
※上記は大型株の月次騰落率から小型株の月次騰落率を差し引いたものです。  
※大型株：TOPIX 100(配当込み)、小型株：TOPIX Small(配当込み)  
出所：ブルームバーグのデータをもとにアセットマネジメントOne作成

※上記は過去の情報であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

# 市場環境に応じて規模別配分比率を機動的に変更

- 自由演技は、特定の「画一」的な運用スタイルではなく、相場動向に応じてベストと判断される「自由」な運用スタイルを適宜選択するファンドです。
- 大型株は時価総額が大きく、流動性も高いことから、外国人投資家や機関投資家の保有比率が高い傾向があります。相場の動きはこうした投資家の動向に左右されやすく、大型株は相場との連動性が高いという特性を持ちます。自由演技は、相場の上昇時に大型株のウェイトを高めにしたり、相場下落時に中小型株のウェイトを相対的に高める運用を行うなど、パフォーマンスの向上を目指しています。また、その局面でベストと思われる投資尺度を活用した銘柄選択を行い、個別銘柄選択による超過収益の積み上げも図っています。

当ファンドの規模別構成比推移



※期間：2015年8月末～2025年8月末(月次)

※東証上場銘柄のうち、TOPIX 100を大型株、TOPIX Mid400を中型株、東証プライム銘柄からTOPIX 100、TOPIX Mid400の構成銘柄を除いた銘柄を小型株、大型株・中型株・小型株に含まれない当ファンドの保有銘柄をその他として分類しています。

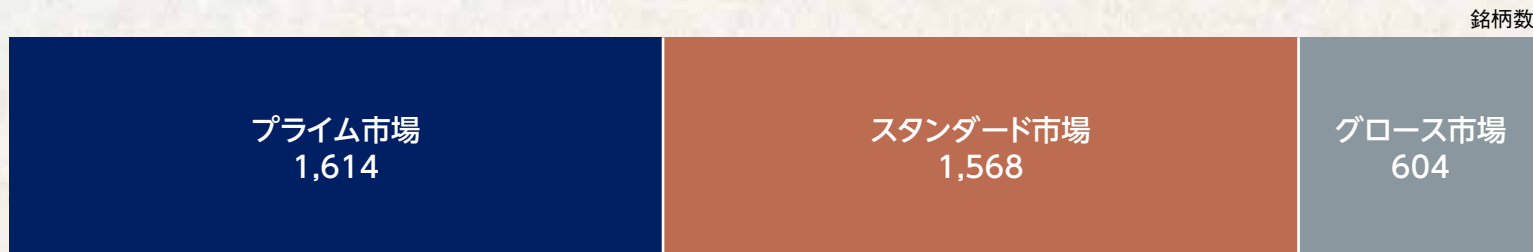
※上記比率は、株式ポートフォリオに対する割合です。

※上記は過去の情報および運用実績であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

# 幅広い投資対象が多くの投資機会を創出

- 当ファンドは、新興市場などにも幅広く投資します。
- 個別銘柄の選択では、企業の成長力および割安性に加え、市場の動向・需給等を総合的に判断し、対TOPIX(配当込み)での超過収益の獲得を目指します。
- 3,700社を超える企業の決算チェックを行い、有望な銘柄は独自取材を行うことで、常に投資チャンスのある銘柄の発掘に努めています。

## 当ファンドの主な投資対象



※2025年8月末時点  
出所：日本取引所グループのデータをもとにアセットマネジメントOne作成

※上記は過去の情報であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。また、すべての市場への投資を保証するものではありません。

# 個別銘柄選択事例

- 中小型株には、些細なきっかけで株価が大きく上昇する可能性のある銘柄が多数存在すると考えられます。
- 当ファンドでは企業の決算チェックと独自取材を通じてトップコンやレゾナック・ホールディングスに注目し、投資適切と判断したことにより、リターンを獲得しました。

## 銘柄事例：トップコン（眼科関連の医療機器や測量機器メーカー）

眼科用の医療機器など、株式市場で相対的に高く評価される事業を展開する一方で、建設測量機器などの事業も抱えていることから、同社のバリュエーションが低位であったため、相対的に割安感があると判断して組入れを開始しました。その後、2024年12月に同社がMBO（経営陣による企業買収）するのではないか、という報道を受け株価が上昇したため、利益確定を行いました。



※全売却の前月末時点の純資産総額に対する実質組入比率：0.28%（2024年11月末）

※期間：2023年3月31日～2024年12月30日（日次）

出所：ブルームバーグのデータをもとにアセットマネジメントOne作成

## 銘柄事例：レゾナック・ホールディングス（合成樹脂などを製造する化学メーカー）

昭和電工という企業名で上場していた化学メーカーです。樹脂製品などの化学製品のほか半導体材料やリチウムイオン電池の負極材など、多様な製品を展開しています。半導体製造の後工程における世界シェアNo.1の材料を多く持っており、AI向け半導体需要の拡大に伴い成長が期待できる一方で、バリュエーションが低位であったため組入れを開始しました。その後、想定通り株価が上昇したため利益確定を行いました。



※全売却の前月末時点の純資産総額に対する実質組入比率：0.28%（2024年11月末）

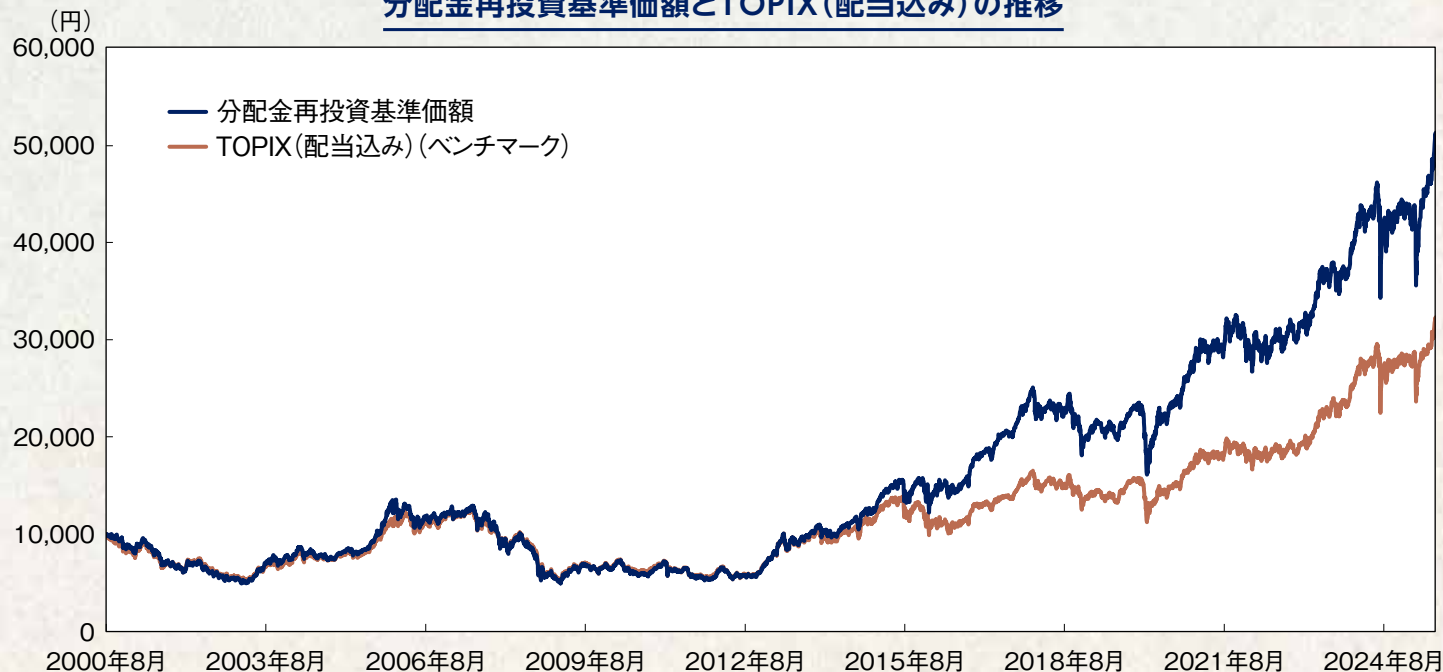
※期間：2023年12月29日～2024年12月30日（日次）

※上記は当ファンドにおいて過去に行った個別銘柄選択における成功事例の一部を示したものです。当ファンドの個別銘柄の売買がすべて成功することを示唆・保証するものではありません。また、個別銘柄の推奨を目的としたものではありません。

※上記は過去の情報であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

# ファンドのパフォーマンス

分配金再投資基準価額とTOPIX (配当込み) の推移



過去3年の分配金実績 (税引前)

第23期 (2023年8月29日)	0円
第24期 (2024年8月29日)	0円
第25期 (2025年8月29日)	0円
<b>設定来累計分配金</b>	<b>200円</b>

※分配金実績は、1万口当たりの税引前分配金を表示しています。  
 ※運用状況によっては分配金が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。上記は過去の実績であり、将来の分配金の支払いおよびその金額について示唆・保証するものではありません。

騰落率

	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	5年	10年	15年	20年	設定来
ファンド	11.2%	20.5%	19.2%	64.6%	116.6%	248.9%	786.7%	445.9%	404.2%
TOPIX(配当込み)	9.9%	16.2%	16.2%	68.8%	114.3%	152.5%	436.3%	266.5%	218.4%
差	1.3%	4.3%	3.0%	-4.2%	2.3%	96.4%	350.4%	179.4%	185.8%

※期間：2000年8月29日(当ファンド設定日前営業日)～2025年8月29日(日次)  
 ※分配金再投資基準価額は設定日前営業日を、TOPIX(配当込み)は当ファンド設定日前営業日の終値を10,000円として計算しています。  
 ※分配金再投資基準価額は1万口当たり、信託報酬控除後の価額です。換金時の費用・税金などは考慮していません。  
 ※分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を当ファンドに再投資したとみなして計算した理論上のものであり、実際の基準価額とは異なります。  
 ※ファンドの騰落率は、税引前の分配金を再投資したものと算出していますので、実際の投資家利回りとは異なります。各期間は、基準日(2025年8月29日)から過去に遡っています。  
 また、設定来の騰落率については設定当初の投資元本をもとに計算しています。  
 出所：ブルームバーグのデータをもとにアセットマネジメントOne作成

※上記は過去の情報および運用実績であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

# 2015年8月以降の対TOPIX超過収益の推移

6ヵ月間保有した場合の対TOPIX (配当込み) 超過収益の推移



※期間：2015年8月末～2025年8月末(月次)

※各月末時点の6ヵ月前から当ファンドに投資した場合のそれぞれの投資収益率から同期間のTOPIX(配当込み)の収益率を差し引いたものです。

出所：ブルームバーグのデータをもとにアセットマネジメントOne作成

※上記は過去の情報および運用実績であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

# ポートフォリオの状況 (2025年8月末時点)

ポートフォリオ構成比率(%)

株式		97.2
	東証プライム	95.6
	東証スタンダード	1.2
	東証グロース	0.4
	地方市場	0.0
	その他新興市場	0.0
株式先物		2.0
株式実質組入		99.2
現金等		2.8
組入銘柄数		152銘柄

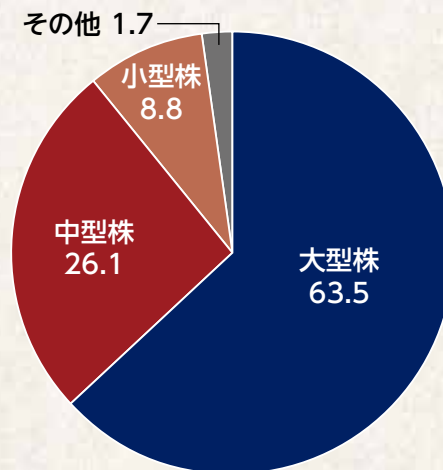
※上記比率は純資産総額に対する実質組入比率です。

組入上位10銘柄

No.	銘柄	組入比率(%)
1	三菱UFJフィナンシャル・グループ	4.1
2	ソニーグループ	3.9
3	トヨタ自動車	3.6
4	三井住友フィナンシャルグループ	2.7
5	日立製作所	2.7
6	ソフトバンクグループ	2.0
7	任天堂	1.9
8	三菱重工業	1.9
9	三菱商事	1.8
10	日本電気	1.6

※上記比率は純資産総額に対する実質組入比率です。

当ファンドの規模別構成比率(%)



規模別組入上位3銘柄

大型株	
三菱UFJフィナンシャル・グループ	東証プライム
ソニーグループ	東証プライム
トヨタ自動車	東証プライム
中型株	
オービック	東証プライム
フジクラ	東証プライム
イビデン	東証プライム
小型株	
ラウンドワン	東証プライム
エムアップホールディングス	東証プライム
ノーリツ鋼機	東証プライム
その他	
santec Holdings	東証スタンダード
フェローテックホールディングス	東証スタンダード
テラプローブ	東証スタンダード

※東証上場銘柄のうち、TOPIX 100を大型株、TOPIX Mid400を中型株、東証プライム銘柄からTOPIX 100、TOPIX Mid400の構成銘柄を除いた銘柄を小型株、大型株・中型株・小型株に含まれない当ファンドの保有銘柄をその他として分類しています。

※上記比率は、株式ポートフォリオに対する割合です。なお、各比率の合計は四捨五入の関係で100%とならない場合があります。

出所：日本取引所グループのデータをもとにアセットマネジメントOne作成

※上記は過去の運用実績であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

# ファンドの特色

マクロの投資環境の変化に応じて投資スタイルを適宜変更します。  
その局面でベストと思われる投資尺度を活用した銘柄選択を行います。

ある特定の「画一」的な運用スタイルではなく、相場動向に応じてベストと判断される「自由」な運用スタイルを適宜選択するファンドです。

## 投資方針

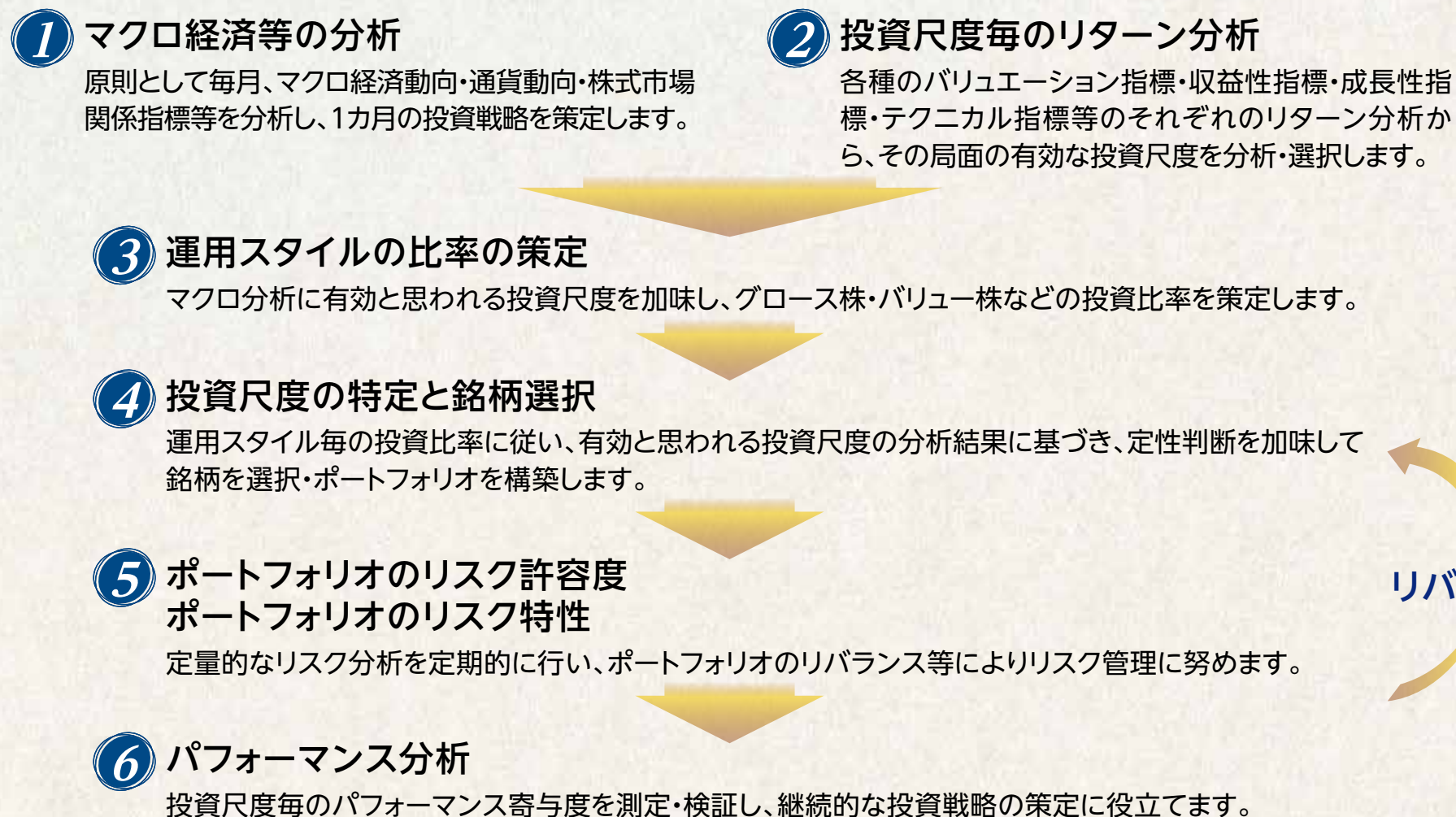
- ① One国内株オープンマザーファンドへの投資を通じて、わが国の上場株式に実質的に投資します。マザーファンドの組入比率は、原則として高位を維持します。また、株式の実質組入比率は、原則として高位を維持します。
- ② 通貨動向、景気指標ならびに市場関係指標等の調査に基づいた、マクロ投資環境の分析により投資判断を行います。
- ③ 投資環境の変化に応じて、成長系(グロース系)、割安系(バリュー系)、大型、中小型といった視点等から、その局面で最適と思われる投資スタイルに比重を置いた資産配分を行います。
- ④ 個別銘柄の選択は、利益成長、資本効率、キャッシュフローベースの企業価値等の視点から、成長力および割安性その他の要因を見極めて行います。
- ⑤ 東証株価指数(TOPIX)(配当込み)をベンチマークとします。

東証株価指数(TOPIX)、東証規模別株価指数の指数値および東証株価指数(TOPIX)、東証規模別株価指数にかかる標章または商標は、株式会社JPX総研または株式会社JPX総研の関連会社(以下「JPX」という。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など東証株価指数(TOPIX)、東証規模別株価指数に関するすべての権利・ノウハウおよび東証株価指数(TOPIX)、東証規模別株価指数にかかる標章または商標に関するすべての権利はJPXが有しています。JPXは、東証株価指数(TOPIX)、東証規模別株価指数の指数値の算出または公表の誤謬、遅延または中断に対し、責任を負いません。本商品は、JPXにより提供、保証または販売されるものではなく、本商品の設定、販売および販売促進活動に起因するいかなる損害に対してもJPXは責任を負いません。

資金動向、市況動向等によっては、上記の運用ができない場合があります。

# 運用プロセス

## マクロ経済・金融分析、株式市場動向分析をベースとしたトップダウン・アプローチ



※上記はマザーファンドの運用プロセスです。

資金動向、市況動向等によっては、上記の運用ができない場合があります。

# ファンドの投資リスク

## 基準価額の変動要因

当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、ファンドの基準価額は変動します。これらの運用による損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。したがって、投資者のみなさまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。また、投資信託は預貯金と異なります。

株 価 変 動 リ ス ク	当ファンドは、実質的に株式に投資をしますので、株式市場の変動により基準価額が上下します。また、中小型株式等に実質的に投資をする場合があります。これらの株式は、一般的に価格変動性が高いため、基準価額が大きく下がる場合があります。
個 別 銘 柄 選 択 リ ス ク	当ファンドでは、成長系(グロース系)株式、割安系(バリュー系)株式、大型株式、中小型株式といった運用スタイル配分の結果による個別銘柄選択効果により超過収益を積み上げることを目標としているため、株式市場全体の動きとは異なる場合があります。個別銘柄選択リスクとは、投資した株式の価格変動によっては収益の源泉となる場合もありますが、株式市場全体の動向にかかわらず基準価額が下がる要因となる可能性があるリスクをいいます。
流 動 性 リ ス ク	当ファンドにおいて有価証券等を売却または取得する際に、市場規模、取引量、取引規制等により十分な流動性の下での取引を行えない場合には、市場実勢から期待できる価格どおりに取引できないことや、値動きが大きくなることもあり、基準価額に影響をおよぼす可能性があります。
信 用 リ ス ク	当ファンドが実質的に投資する株式の発行者が経営不安・倒産に陥った場合、またこうした状況に陥ると予想される場合等には、株式の価格が下落したりその価値がなくなることがあり、基準価額が下がる要因となります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

## 分配方針

年1回の決算時(毎年8月29日(休業日の場合は翌営業日))に、配当収入および売買益(評価益を含みます。)等を信託財産に留保することを基本としつつ、委託会社が市場金利水準、市況動向、基準価額水準等を勘案して、分配金額を決定します。

- ・将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。
- ・分配金額は、分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

## 分配金に関する留意事項

- 収益分配は、計算期間中に発生した運用収益(経費控除後の配当等収益および売買益(評価益を含みます。))を超えて行われる場合があります。したがって、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。
- 受益者の個別元本の状況によっては、分配金の全額または一部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。個別元本とは、追加型投資信託を保有する受益者毎の取得元本のことで、受益者毎に異なります。
- 分配金は純資産総額から支払われます。このため、分配金支払い後の純資産総額は減少することとなり、基準価額が下落する要因となります。計算期間中の運用収益以上に分配金の支払いを行う場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。

# お申込みメモ

※ご購入の際は、投資信託説明書(交付目論見書)をご確認ください。

## 購入単位

販売会社が定める単位(当初元本1口=1円)

## 購入価額

購入申込受付日の基準価額(基準価額は1万口当たりで表示しています。)

## 換金単位

販売会社が定める単位

## 換金価額

換金申込受付日の基準価額から信託財産留保額を控除した価額

## 換金代金

原則として換金申込受付日から起算して5営業日目からお支払いします。

## 換金制限

信託財産の資金管理を円滑に行うため、大口の換金請求に制限を設ける場合があります。

## 購入・換金申込受付の中止および取消し

金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止することおよびすでに受付けた購入・換金のお申込みの受付を取り消す場合があります。

## 信託期間

無期限(2000年8月30日設定)

## 繰上償還

受益権口数が10億口を下回るようになった場合等には、償還することがあります。

## 決算日

毎年8月29日(休業日の場合には翌営業日)

## 収益分配

年1回の毎決算日に、収益分配方針に基づいて収益分配を行います。

※お申込コースには、「分配金受取りコース」と「分配金再投資コース」があります。ただし、販売会社によっては、どちらか一方のみの取扱いとなる場合があります。詳細は販売会社までお問い合わせください。

## 課税関係

当ファンドは課税上は株式投資信託として取り扱われます。

原則として、分配時の普通分配金ならびに換金時の値上がり益および償還時の償還差益に対して課税されます。

※公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合に少額投資非課税制度(NISA)の適用対象となります。

当ファンドは、NISAの「成長投資枠(特定非課税管理勘定)」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。くわしくは、販売会社にお問い合わせください。

※税法が改正された場合等には、上記内容が変更となる場合があります。

## お客さまにご負担いただく手数料等について

詳細については、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

### ●ご購入時

#### 購入時手数料

購入価額に**3.30%(税抜3.0%)**を上限として、販売会社が別に定める手数料率を乗じて得た額となります。

購入時手数料は、商品や投資環境の説明および情報提供等、ならびに購入に関する事務手続き等にかかる費用の対価として、販売会社に支払われます。

※くわしくは販売会社にお問い合わせください。

### ●ご換金時

#### 換金時手数料

ありません。

#### 信託財産留保額

換金申込受付日の基準価額に**0.3%**の率を乗じて得た額とします。

### ●保有期間中(信託財産から間接的にご負担いただきます。)

#### 運用管理費用(信託報酬)

ファンドの日々の純資産総額に対して**年率1.76%(税抜1.60%)**

支払先	内訳(税抜)	主な役務
委託会社	年率0.7625%	信託財産の運用、目論見書等各種書類の作成、基準価額の算出等の対価
販売会社	年率0.7625%	購入後の情報提供、交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価
受託会社	年率0.0750%	運用財産の保管・管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価

#### その他の費用・手数料

組入有価証券等の売買の際に発生する売買委託手数料、信託事務の諸費用、外国での資産の保管等に要する費用、監査費用等が信託財産から支払われます。

※その他の費用・手数料については、定期的に見直されるものや売買条件等により異なるものがあるため、事前に料率、上限額等を表示することができません。

※上記手数料等の合計額等については、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することができません。

※税法が改正された場合等には、税込手数料等が変更となる場合があります。

# ご注意事項等

## 当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成した販売用資料です。
- お申込みに際しては、販売会社からお渡しする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認ください。ご自身でご判断ください。
- 当ファンドは、実質的に株式等の値動きのある有価証券に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、投資者のみなさまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。
- 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。
- 当資料における内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。
- 投資信託は
  - 1.預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象にもなりません。
  - 2.購入金額については元本保証および利回り保証のいずれもありません。
  - 3.投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。

## 委託会社その他関係法人の概要

- 委託会社 **アセットマネジメントOne株式会社**  
信託財産の運用指図等を行います。
- 受託会社 **三井住友信託銀行株式会社**  
信託財産の保管・管理業務等を行います。
- 販売会社 募集の取扱いおよび販売、投資信託説明書(目論見書)・運用報告書の交付、収益分配金の再投資、収益分配金、一部解約金および償還金の支払いに関する事務等を行います。

## 照 会 先

**アセットマネジメントOne株式会社**

- コールセンター 0120-104-694 受付時間:営業日の午前9時~午後5時
- ホームページアドレス <https://www.am-one.co.jp/>